



ふるばやし

京都府議会議員

vol.03 2020.12

古林よしたか 府議会報告

ずっと住み続けられるまちへ

京田辺市 井手町
宇治田原町



【発行】古林よしたか 〒610-0334 京田辺市田辺中央3丁目3-1プレステージ書斎館106号 TEL.0774-64-7078

furubayashi-yoshitaka.com

9月 定例会報告

平素は古林よしたかの活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。さて、9月議会におきまして、一般質問をさせていただきました。このページはなぜこれらの質問をしたのか、どういう想いで質問をしたのかを、記載させていただきます。

古林よしたかの想い

京都府総合計画の見直し・国土強靱化について



昨年、西脇知事は新総合計画を策定された。しかし、今年になりコロナショックが発生し、社会の様相が大きく変わった。そのため知事から、新総合計画を見直さなければならない旨の発言があった。

私も、新総合計画の見直しには賛成する。しかし、そもそも新型コロナウイルス感染症によって発生している様々な問題は、その多くが以前から警鐘を鳴らされ続けてきたものではなかったのか。

例えば、

- 保健所の数や病院のベッド数、感染症対策のための陰圧室・医療資材の供給体制等の不十分さ。
- 観光客数に占める外国人観光客の割合の増加や、国内産業の空洞化をもたらす過度なサプライチェーンのグローバル化。
- この20年間で先進国の中で日本だけが防災投資を半分以下にまで削ってしまったことによる豪雨災害・大震災など自然災害からの備えの不十分さ。
- 東京一極集中
- 食料自給率の低迷
- 非正規雇用の増加
- 行き過ぎた公務員削減 など。

それにもかかわらず、こうした危機に十分に備えることができなくなった背景には、短期的・局所的な経済活動を優先し、長期的なリスクや広域的な影響への配慮が足りなかった、いわゆる、行き過ぎた新自由主義の流れがある。

よって、新総合計画の改定を行うにあたっては、こうした新自由主義に基づく世の中の流れからの転換を果たす覚悟が必要だが、京都府にその認識や覚悟があるのか、質さなければならないと考えたため。

国土強靱化についても、近年、大地震のリスクや豪雨の規模や頻度が増しているにもかかわらず、我が国は防災予算をこの20年間で約半分に削っている。

また、東京一極集中も加速し続け、危機への脆弱さに拍車をかけている。東京一極集中の最大の原因は、地方と東京圏の物理的・交通インフラの整備水準の格差である。こうした交通インフラ整備の予算もこの20年間で約半分に削られている。こうした必要な投資ができず、ふるさとに住み続けることが困難になってきている根本的な原因は、我が国の緊縮財政にある。

緊縮財政をなぜ行わなければならないのか。それは、国には今や1000兆円以上の借金があり、このままだと国家財政が破綻をしてしまい、後の世代に大きなツケをのこしてしまうから、という考え方からきている。

しかし、本当の後世へのツケとは、必要な投資をせず、危機への備えが不十分な脆弱な国土を残すこと、また「今だけ」「こっだけ」「自分だけ」良ければいいという考え方が蔓延し、国民同士助け合うことができなくなる国家を残すことである。

国債であれ何であれ、投資したお金は消えることはなく、1円残らず誰かの所得になり、いずれ税金として国に戻っていくことを考えた場合、国家財政の健全性は政府の債務残高ではなく、インフレ率によって判断されるべきである。

私は、こうした事実を客観的に説明できる国家財政についての考え方を、早急に確立させることが今、最も必要であると考える。

それは国がやるべき事だという意見もあるかもしれないが、この30年間の一貫した構造改革路線を見てみると、国民の人命と財産を直接預かる地方自治体の長からも声をあげるべき時が、今来ているのではないかと。



宇治茶の振興策について



京都府南部の住民にとってお茶文化は、地域らしさをつくりだしている源泉であり、その重要性は計り知れない。コロナショックによって茶業も大きな打撃を受けており、中でも高級茶の生産農家さんのダメージが大きい。品評会に出品されているトップランナーがこれまで通りの生産コストをかけられなくなると、宇治茶全体の価格低下を招いてしまう。そして、宇治茶ブランドが回復困難なほど傷つけられてしまう可能性がある。

こうした宇治茶の価格やブランドイメージを支えておられる生産農家のトップランナー向けの支援をさらに充実させ、宇治茶業界全体を支えなければならないのではないかと。

9月

定例会 一般質問

01 京都府総合計画の見直しについて

質問 コロナショックで生じている問題は、多くが以前より予測されていた。にもかかわらず十分な対策ができていない状況にある。については、このような状況に迅速・的確に対応できるよう、総合計画の見直しを行うべきであると考えているが、どのように対応するのか。

答弁

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響は社会経済のあらゆる分野に及んでいる。
- ▶ 現在、庁内に検討チームを設置し新たな戦略づくりを進め、総合計画への影響について点検を行っている。
- ▶ 戦略づくりは、170名を超える外部有識者等からヒアリングを実施。
- ▶ ヒアリングからは、長期間の自粛生活により
 - ① 地域や社会とのつながりや人々との絆、共感しあえることの重要性が再認識された
 - ② 文化や観光、ものづくりといった京都が誇る「本物」の価値が再評価されている
 - ③ 地方への分散の機運が高まる中で、消費行動や働き方の変化に対応した新しい社会のあり方が求められている
 などを指摘いただいている。



▶ 今後の対応方向は、

- 子育て** 子育て家庭の孤立化を防ぎ、地域を含めた社会全体で粘り強く、子育てしやすいまちづくりを進める
 - 府民躍動** テレワーク等の働き方の多様化を念頭に、多様な人材がより活躍できる共生社会の実現を目指す
 - 文化振興** リアルの価値を守り育て、さらにバーチャルを加えたハイブリッドの文化芸術の発信
 - 産業振興** 観光・伝統・ものづくり産業、和食など、京都産業の多様性を活かして、リスクに強く、イノベーションを生み続ける産業社会の再構築
 - 安心・安全** 大規模災害時での感染症の蔓延といった複合的なリスクへの対応など、新しい次元の安心・安全の確保
 - 地域づくり** 観光と地域産業の融合などで地域に新たな価値を創出し、その魅力を高めて、交流人口の拡大や移住の促進につなげる
- ▶ こうした方向性は、リスクに強いしなやかで強靱な社会づくりにもつながるものと考えている
- ▶ 引き続きしっかりと検討を行い、具体的な取組を明らかにするなど、京都ならではの強みを活かした戦略をとりまとめていく



02 国土強靱化について

質問 防災減災対策と一極集中解消のため、20年間で半減したハード対策を長期計画に基づいて行うべき。府南部地域の均衡ある発展のため、国道24号城陽井手木津川バイパスと宇治田原山手線全線整備が必要であるが今後の見通しは？

答弁

国土強靱化や東京一極集中是正のためのハード対策について

- ▶ 近年、全国各地で尊い人命と貴重な財産が失われる大規模災害が頻発しており、国土の強靱化は重要な課題
- ▶ 京都府では国土強靱化地域計画を平成28年11月に策定し
 - ① 河川の改修や河川内の樹木の伐採、緊急輸送道路の法面対策や橋梁の耐震化、砂防えん堤の設置による土砂災害の防止といったハード整備
 - ② 危機管理型水位計や河川防災カメラの設置、道路情報盤の更新による防災情報の充実などのソフト対策を推進
- ▶ 新名神高速道路をはじめとする道路網や鉄道、京都舞鶴港などの交通・流通基盤の充実強化により、府域の魅力を高め、産業立地や地域経済の活性化を強力に進めていくことが重要
- ▶ このことが東京一極集中の是正にもつながるものと考えている
- ▶ 道半ばになっている交通基盤の整備を加速し、また頻発化・激甚化する災害への備えを一層強化していくことが必要
- ▶ そのためには、中長期的に安定的な財源の確保が必要
- ▶ 国への政策提案において、令和3年度以降の防災・減災対策予算の確保、国の直轄事業の早期完成、府事業への支援の充実などを要望した
- ▶ 今後とも国、市町村とも連携し、府民の皆様の安心・安全で豊かな暮らしに向けたインフラ整備に努める



国道24号城陽井手木津川バイパスについて

- ▶ 国道24号をはじめとする幹線道路は、木津川や支流の浸水想定区域を通過しており、河川氾濫時には多くの集落が孤立する恐れがあるため、災害に対する道路ネットワークの強靱化が急務
- ▶ 国道24号城陽井手木津川バイパスは国の直轄事業として整備が行われている
- ▶ 現在、国において測量調査や道路予備設計、沿線の城陽市、井手町、木津川市において用地取得に先立つ地籍調査を進めている
- ▶ 年度内にも用地買収に着手する見込み
- ▶ 京都府としては、早期の工事着手に向け、京都府土地開発公社南部事務所を活用して用地取得を支援する



宇治田原山手線について

- ▶ 宇治田原町の国道307号は災害時の脆弱性を有するだけでなく、平常時も著しい渋滞が発生しており、沿線の企業からも、交通の円滑化を強く求められている
- ▶ この国道307号のバイパスとして機能する宇治田原山手線は、新名神高速道路の宇治田原インターチェンジから宇治田原工業団地までの約5kmを結ぶ都市計画道路
- ▶ 宇治田原町のまちづくり計画における骨格的な道路として早期の整備が求められている
- ▶ 現在、京都府と宇治田原町が連携して、宇治田原インターチェンジから町役場新庁舎まで整備を進め、新庁舎から工業団地までの約1.7kmが未着手区間となっている
- ▶ 国道307号の交通を円滑化し、新名神の効果を最大限活用するため、この未着手区間は、現在事業中の区間の完成後切れ目なく整備することが必要
- ▶ 来年度、京都府において事業評価のための調査を行い、事業着手に向けた準備を進める



03 宇治茶の振興策について

質問 宇治茶の価格が大きく低下し、生産農家は事業継続が困難に。地域農業を牽引するトップランナーを支援することは、宇治茶の価格を支え、業界の発展や担い手育成にも繋がる。今後、高級茶をどのように需要回復させ生産振興に繋げようとしているのか。

答弁

- ▶ 宇治茶は、長い歴史の中で培われた伝統技術により生産され、全国茶品評会等での上位入賞独占や、多くの大臣賞受賞など、高級茶としての高い評価を得ている
- ▶ しかし近年、急須で飲む高級茶の需要が減少している
- ▶ さらに、新型コロナウイルス感染症の影響による販路の減少により、本年の一番茶価格は前年比約2割減
- ▶ 生産者は大きなダメージを受けている
- ▶ 特に、手摘みによる高級茶生産は、資材費や労賃などの経費が機械摘みに比べ3倍以上かかり、大幅な価格下落により、資金繰りが難しくなるなど、大きな影響を受けている
- ▶ 高級茶の生産継続と需要回復の両面からの対策が急務
- ▶ 6月補正予算では、先に制度化された国の定額助成に加え、他府県に比べ高コストである府内の高級茶生産の経営実態を考慮し、10a当たり手摘みで5万円、機械摘みで1万円を府独自に上乗せして助成する措置を講じた
- ▶ 需要回復対策として、
 - ① 高級料亭やホテルにおいて有料で提供される瓶入り宇治茶「京都宇治玉露 玉兎」の販売強化を支援
 - ② 高級茶用ティーパックなど、府内企業が行う新商品開発の取組を支援
- ▶ 今後はこのような緊急対策とあわせ、中長期的な高級茶振興策として
 - ① 高品質化に向けた被覆棚整備や「宇治種」への改植支援の強化
 - ② 低コスト化を図るスマート技術の実証、普及を進める
 - ③ 高級茶需要の高い北米やEU等への輸出拡大に向けて、各国の残留農薬基準に対応した栽培技術の確立・実証、有機茶生産への転換などを支援していく



古林よしたかの
京都府議会 中継録画映像



宇治田原山手線の全線整備に大きく前進!

古林よしたかの
質問に対する知事答弁

未着手区間は事業中区間の完成後切れ目なく整備することが必要
来年度事業評価のための調査を行い、事業着手に向けた準備を進める

洛タイ新報 2020年(令和2年)9月24日(木曜日) 第20093号

宇治田原山手線「完全整備」へ
一般質問 西脇知事「切れ目なく」

▲洛タイ新報 2020.9.24



古林 活動記録



地元戦没者追悼式

第55回京田辺市民文化祭 表彰状授与



地元絵画展



地元マルシェ



座談会



京都府議会自民党議員団視察



京都府警察航空隊視察



皆様のご意見・ご要望
お待ちしております。



古林よしたか 事務所のご案内

〒610-0334 京田辺市田辺中央3丁目3-1 プレステージ番館106号
TEL.0774-64-7078 FAX.0774-64-7079

✉ furubayashi.yoshitaka@gmail.com
https://furubayashi-yoshitaka.com/



古林よしたか 検索